

生活困窮学生への支援の実施と寄付状況のご報告

令和2年6月17日

各 位

先般、皆さま方に生活困窮学生への支援のお願いをいたしましたところ、本学卒業生の方々をはじめ、在学生やそのご家族の方、地域や企業の方々、本学教職員から心温まるご寄附が寄せられましたこと、心からお礼申し上げます。

5月25日に47都道府県全ての「緊急事態宣言」が解除され、富山大学でも感染防止対策の実施、3つの密を徹底的に避け、6月から遠隔授業と並行して、実験・実習等の一部科目では対面型授業を再開させ、学生も徐々に学生生活を取り戻しつつあります。

しかし、社会全体の経済停滞による保護者からの仕送り減、アルバイトの休止等により生活困窮に陥った学生がいることから、本学では、これまでに集めた富山大学基金から約7千5百万円を拠出して、困窮学生（約1500名）への生活支援として1人当たり5万円の支援を実施いたしました。生活困窮が改善しない学生達が署名活動を行い、全学生への富山大学独自の学生支援の要望の提出があり、まだまだ支援が行きわたらない状況であります。

また、国の「学生支援緊急給付金」（10万円、非課税世帯20万円）も活用しますが、全学生の1割程度（約900名）にしか支給されないことが判明いたしました。

4月末より富山大学基金（一般・修学支援）への寄附をお願いし、現在まで約2千4百万円のご厚情を賜りましたが、まだまだ多くの困窮学生の修学支援には足りない現状があります。

つきましては、度重なる寄附のお願いで申し訳ありませんが、困窮学生への修学支援寄附金の追加目標額を5千万円として、引き続き、本学卒業生や教職員はじめ、広く一般の皆さま方に寄附をお願いするとともに、将来、地域やわが国で活躍をするであろう本学学生への修学支援を改めてお願い申し上げます。

富山大学長 齋藤 滋

基金担当理事 武山 良三